

3 自らのライフスタイルにあった生き方づくり

(1) 多様な働き方の実現

No.	事業名	担当課	内容(第2期計画記載)	実施状況(令和4年度)	評価	今後の取り組み	方向性
1	子育て中の親が働きやすい環境づくり	子育て支援課	子育てしながら働きやすい環境を整えるため、企業や労働者に対して、フレックスタイム制などの多様な働き方や育児休業制度、関係法令に関する情報提供を、県と連携し行います。また、「子育て応援の店」への登録を推進します。	病児保育事業、ファミリーサポートセンター事業など、子育て支援委員に関する情報提供を行った。	A	病児保育事業の広域化に向けての周知を図り、利用者の利便性を高める。	継続
		商工・企業立地課		市役所及びおごおり情報プラザにチラシを配架するなどして、福岡県が推進する「子育て応援の店」への登録推進に努めた。	B	引き続き、関係機関と連携し、積極的な情報発信に取り組む。	継続
2	女性の職場復帰・再就職のための支援の充実	商工・企業立地課	出産や子育て後の職場復帰・再就職の支援に向けて相談窓口の周知を行うとともに、職業安定所などと連携しながら情報提供や支援体制の充実を図ります。また、パソコン講座や起業・小売業について学ぶ講座の開催など、女性の再チャレンジを支援する事業の充実を図ります。	市役所及びおごおり情報プラザにチラシを配架するなどして、筑後労働者支援事務所に設置してある子育て女性就職支援センターをはじめとする関係機関が実施する各種相談会やセミナーの周知・情報発信を行った。	B	引き続き、関係機関と連携して就業支援を行うため、積極的な情報発信等を行っていく。	継続
		生涯学習課		女性再チャレンジ支援事業として講座を開講することで、支援をすることができた。	A	「おうち起業応援講座」を受講した卒業生が活動できる場、拠点となる場を提供できないか、担当部署と協議を行うとともに、卒業生の自立化への支援体制についても検討する。	継続
		生涯学習課		女性を含め、若者から高齢者すべての方への就労支援につながる資料の収集を行ない、情報提供に努めた。	B	今後も女性を含め、若者から高齢者すべての方への就労支援につながる資料の充実と、情報提供を行う。	継続
3	不安定就労若年者などに対する意識啓発・職業訓練の充実	商工・企業立地課	長期にわたり不安定な就労状況が続けるフリーターや、若年の非労働者に対して、就業意識の啓発に努めます。また、関係機関と連携しながら児童・生徒に対する職業啓発を行い、発達段階に応じたキャリア教育を計画的に推進します。	市役所及びおごおり情報プラザにチラシを配架するなどして、若年者就労支援センターや筑後若者サポートステーションなどの関係機関が実施する各種相談会やセミナーの周知・情報発信を行った。	B	引き続き、関係機関と連携して就業支援を行うため、積極的な情報発信等を行っていく。	継続

3 自らのライフスタイルにあった生き方づくり

(2)男女共同参画社会の実現

No.	事業名	担当課	内容(第2期計画記載)	実施状況(令和4年度)	評価	今後の取り組み	方向性
1	男女共同参画計画に基づく事業の推進	総務広報課	「第2次小郡市男女共同参画計画」に基づき、男女が仕事や家事・育児を始め、あらゆる場面でともに活躍し支え合える社会の実現を目指します。そのために、セミナーや広報紙など多様な場面や媒体を活用し、情報提供や啓発活動を行います。	おごおり女性協議会と連携して、男女を問わずに相手に自分の意見を伝える「アサーティブコミュニケーション」の基礎を学ぶおごおりフォーラムを開催した。広報紙では、育児・介護休業法改正や家事シェア、男女共同参画週間について取り上げ、男女がともに活躍できる社会の実現に向けた啓発活動を行った。	A	おごおり女性協議会と連携したおごおりフォーラムの開催について、内容をさらに充実させる。広報紙においては、市民の固定的役割分担意識の解消に向けて啓発記事を掲載する。	充実
		生涯学習課		女性再チャレンジ支援事業や男の料理教室を実施したが、男女共同の視点に立った啓発活動はほとんど実施できていない。	C	講座開催時に情報提供や、講座終了後のアンケートに男女共同参画についての項目を設ける等を検討し、啓発活動を行う。	見直し
2	男性の子育て参画の促進	子ども育成課	夫婦が協力しあいながら子育てできる環境づくりに向け、父親学級や男性料理教室など、男性向けの子育てや家事に関する講座などを開催します。また、男性の育児休業取得に向けた普及・啓発を通じて、男性の子育てへの参画を促します。	ようこそ赤ちゃん教室(妊産婦とその家族が対象)において、男性が参加する子育てや家事に対する意識づけを行った。	B	父親の育児参加を推進するため、ようこそ赤ちゃん教室において、男性が参加する子育てに関する講話を継続して実施する。	継続
		コミュニティ推進課		校区コミュニティセンターにおいて、男性向け料理教室を開催した。令和4年度は20の講座に延べ178人が参加した。また、男性向け料理サークルの支援を行った。	B	引き続き、男性向け料理教室等の開催をととして、男性の家事・育児への参画を促す。また、まちづくり協議会の拠点施設及び事務局として、青少年育成部会等の支援を行うことにより、性別や年齢を問わず子育て・青少年育成に携わることができる地域づくりを推進する。	充実
		生涯学習課		感染症対策を十分しながら、「男の料理教室」を実施したが、作ったものを持ち帰るという形式になったので、啓発活動をするに至っていない。	B	「男の料理教室」の受講生の年齢層が高く、子育て世代ではないため、若年層も受講できるよう、教室の実施形態を見直していく。	継続